

第二回検討会 作業シート | 多文化共生編

今後の課題 | 各部会から出された課題・意見を要約して掲載しています。

【テーマ（１） 板橋らしい国際交流】

- ・ 海外から板橋区に来る外国人は、生産年齢人口が多い。自分の子供が学校に通う世帯か、自分がその社会で働いているか等で、社会とのかかわり方が変わる。今後は「仕事」という側面での交流を考えていけば、外国人の雇用を生み出し、地域の担い手になってもらえると考え。
- ・ 日本人の側から、外国人の生活が見えていない部分が多いと感じる。外国人の生活の実態を、日本人が理解できる仕組みづくりが必要だと考える。
- ・ 事業を行う際は、小さな単位で行い、参加者が互いの顔を見られる環境づくりが大切である。
- ・ 地域での交流は、外国人を町会の活動に巻き込むなどして、当事者として扱うべきである。
- ・ 板橋区は交流都市が 23 区中で 1 番多い 5 か国となっている。交流都市からの来賓について、建設関係や教育・高齢者施設視察など、テーマをもって受け入れを行えるとよいのではないかと。
- ・ 交流都市との青少年・区民交流をさらに進めていくことが課題であると感じる。さらに、このような交流は、一度きりの交流ではなく、継続的な関係を築く必要があると感じる。
- ・ SDG s の視点から多文化共生の推進に取り組むためには、外国人が日本で学んだ知識や技術を母国に持ち帰ってもらうという発想や、交流都市などとの国際交流は、行政課題に関するテーマをもって行うという視点が必要である。社会の問題を世界中の人々でどのように解決していくかという問いが、SDG s の取組みを発展させる方向性のひとつである。

【テーマ（２） 日本語教育とやさしい日本語・多言語対応】

- ・ 多言語対応とは、既存の文書等の言語を翻訳するだけということではない。今あるものを根本から見直し、だれにとっても本当にわかりやすいものを作るということである。
- ・ 日本の文化に触れることを通して、日本語を学ぶことができる仕組みづくりが必要。
- ・ 外国人の子どもを対象とする、入学前のオリエンテーションを行ったらどうか。価値観や文化の違いなどを事前に説明しておくことで、学校生活に早くなじむことができる。
- ・ 外国人に地域の担い手になってもらうには、日本語を理解してもらうことが欠かせない。病気の際など、生活するうえでの困りごとをサポートできたらよい。
- ・ 通訳などのボランティアに対して、行政のサポートが不十分だと感じる。また、ボランティア同士のつながりも希薄である。ボランティア間での連携を通じ、情報共有を行うことで、より有効なサービスを提供できる。
- ・ 外国人に、地域の行事に参加してほしいと思っても、周知することが困難である。特に、チラシなどの掲示物の多言語対応に課題を感じる。

【具体的な意見】例「ボランティア活動にかかわる区民の数を増やすという視点を取り入れたらどうか」

2025 年のあるべき姿 | 概ね 5 年後の板橋区の多文化共生を見据え、「こうしたまちであってほしい」などのあるべき姿を考えていきます。

- ・ 海外の姉妹・友好都市に住む人びとと、区民の活発な交流をとおして、自分とは違う文化に暮らす人への理解や、世界平和を願う気持ちが、区民に広く浸透しています。
- ・ 地域に暮らす外国人を、「お客様」ではなく、同じ地域に暮らす区民として認識し、日常生活の中で、人種や言語の壁を感じることなく、ともに力を合わせ、地域の課題を解決しています。
- ・ 日本語がわからない外国人の方の気持ちに寄り添い、生活するうえで必要な情報を、適切に提供するという意識が区民に浸透しています。
- ・ 外国人が日本語を学ぶことができる環境を整え、日本語を理解してもらうことで、外国人が、自分が暮らしている地域に愛着を持って生活しています。
- ・ 地域で活動するボランティアの力を最大限に活用するため、活動しやすい環境や、ボランティア同士の顔が見えるような仕組みが、広く取り入れられています。

【具体的な意見】例「板橋区の魅力を外国人に伝えるという発想を盛り込んでどうか」

施策の方向性 | 上記の「あるべき姿」や、「未来像」を実現するために、どのような施策のあり方が望ましいか考えていきます。

海外友好・姉妹都市との関係強化

海外友好・姉妹都市との交流を深めることで、より強い絆をはぐぐむとともに、世界共通の課題解決や、世界平和の実現などに向け、新たな関係を構築していきます。

地域住民としての外国人との共生

地域に暮らす外国人が、日本人と同じ生活 ができるよう、必要な情報をわかりやすい形で伝えとともに、日常生活の困りごとなどを気軽に相談できる体制を構築します。

日本語の学習環境の支援

日本に住む外国人の日本語能力を問わず、どのような方でも十分な学習ができる環境を整備します

ボランティアの活動支援の拡充

外国人の日本語学習をサポートするボランティアの活動支援をするため、ボランティア同士の連携が取れる仕組みづくりや、尊厳をもって活動できる環境をつくります。

【具体的な意見】例「SDG s の視点を盛り込んでみるのはどうか」